



シュトックハウゼン追悼演奏会

2008年9月12日（金） 19:00～
門仲天井ホール

写真：シュトックハウゼンの墓石（ドイツ、キュルテン）

現代ドイツを代表する作曲家カールハインツ・シュトックハウゼン氏が昨年12月5日に79歳で逝去しました。本日の出演者は全員、ドイツのキュルテンで毎年開催されているシュトックハウゼン講習会で学んだ演奏家ばかりです。シュトックハウゼン氏への感謝と哀悼の意をこめて演奏しますので、最後までごゆっくりお聴き下さいませ。

* プログラム *

作曲：カールハインツ・シュトックハウゼン

Karlheinz Stockhausen (1928.8.22. - 2007.12.5.)

7つの日の歌【日本初演】

DIE 7 LIEDER DER TAGE (1986)

バリトン：松平 敬

友情を込めて

IN FREUNDSCHAFT (1977)

サクソフォーン：白井 奈緒美

ティアクライス (十二宮) TIERKREIS (1974/75)より

天秤座・蠍座・射手座

ソプラノ：工藤 あかね

舌先の踊り

ZUNGENSPIZZENTANZ (1983)

ピッコロ：井原 和子

ダンサー：森川 次朗

~~~~~ 休憩 ~~~~~

シュピラル (螺旋)

SPIRAL (1968)

声、短波ラジオ：松平 敬

ピアノ曲 X

KLAVIERSTÜCK X (1954)

ピアノ：保都 玲子

\* 曲目解説 \* (文責：松平 敬)

7つの日の歌 (1986) DIE 7 LIEDER DER TAGE

---

7つのオペラからなる超大作《光 LICHT》(1977-2003) 中の《月曜日 MONTAG》第2幕からの派生作品。原曲では7人の子供によって歌われたが、本ヴァージョンは任意の声、楽器によって演奏可能である。《月曜日の歌》から《日曜日の歌》まで、7つの曜日についての7つの歌から構成される。様々な特殊唱法を織り交ぜたメロディーが、楽譜に指定されたジェスチャーを伴って演奏される。

友情を込めて (1977) IN FREUNDSCHAFT

---

もともとはクラリネット独奏のために作曲されたが、15種類に及ぶ管、弦楽器のための版も作られた。作品は旋律楽器で演奏される3声の疑似ポリフォニーとして作曲されている。導入部で提示された旋律素材(フォルメル)が、中音域で演奏される短いトリル音形を仲介して高音域と低音域で繰り返される。高音域では弱くすばやく、低音域では逆行形で強くゆっくり演奏されるので両極端な性格を持っていることになる。このフォルメルが7回繰り返される間に、両者の音域が少しずつ近づいたり、部分的に素材を交換することにより、対立していた2つのメロディーが最終的に1つの融合した旋律へと成就する。

ティアクライス (1974/75) TIERKREIS

---

オルゴールで演奏される、12の星座を表す12のメロディーとして作曲されたが、あらゆる声、楽器の組み合わせで演奏可能である。各メロディーは3~4回繰り返し演奏されるが、それぞれの繰り返しにおいて、演奏者の創意でメロディーが変形されることが求められる。12のメロディーは、12の星座の性格の違いを音楽化するために、それぞれ異なる中心音とテンポを持ち、メロディーのキャラクターにも注意深く変化を施して作曲されている。本日は、天秤座・蠍座・射手座の3つのメロディーが演奏される。

舌先の踊り (1983) ZUNGENSPITZENTANZ

---

《光の土曜日 SAMSTAG aus LICHT》第3場面《ルツィファーの踊り》からの派生作品。この場面は巨大な人間の顔の形に配置された管打オーケストラのために作曲され、演奏しながら楽器を上下左右に動かすことにより、顔のそれぞれの部分がダンスを踊るかような仕掛けになっている。本作品はその顔面から現れた巨大な舌先の上で、黒猫がダンサーを伴ってピッコロを演奏する趣向になっている。最後にピッコロ奏者が聴衆に向かって叫ぶ“*Salve Satanelli!*”はイタリア語で「ようこそ、悪魔の子どもたち!」の意。

シュピラル (1968) SPIRAL

---

任意の楽器(声)を演奏するソリストと短波ラジオのための作品。短波ラジオが受信した音声をソリストが模倣し、+や=などの記号で書かれた特殊な楽譜の指示に従ってそれを即興的に変形させていくため、演奏結果は毎回異なる。曲名のシュピラル(=螺旋)はこの楽譜の『螺旋記号』に由来する。この記号の箇所では、演奏者は素材を何度も変形させ、その過程で「自分の技術的限界を超越する」ことが要求される。これは、生涯にわたって常に新しい試みを行ったシュトックハウゼン自身の作曲上のモットーでもある。

ピアノ曲 X (1954 完成1961) KLAVIERSTÜCK X

---

ピアノの伝統的な音響に、トーン・クラスターやクラスター・グリッサンドなどノイズ的要素を持ち込んだ革新的な作品。こうした音色の嗜好は同時期に作曲していた電子音楽からの強い影響が感じられる。短い動的な音響と長い静的な音響の組み合わせから構成された長大な主要部と、それに先立つ、主要部の動的な要素のみをまとめて圧縮した濃密な導入部から構成される。主要部全体にわたって、重厚な和音と単旋律の音響的対比やクラスターによるノイズ的音響が、だんだん中庸に薄められていく構想になっている。

## \* 出演者プロフィール \*

### 松平 敬 (バリトン)

Takashi Matsudaira

愛媛県生。東京芸術大学、同大学院に学ぶ。2000年よりほぼ毎年シュトックハウゼン講習会へ参加、2007年「シュピラール」の演奏に対してシュトックハウゼン賞を獲得する。これまで湯浅譲二、クセナキスなど全曲前衛作品ばかりによるリサイタル、シューベルト「冬の旅」とケージ「冬の音楽」を組み合わせた演奏会、全曲シェーンベルク作品によるリサイタルなどを開催。現在、聖徳大学、文教大学講師、日本声楽アカデミー会員、双子座三重奏団メンバー。

### 白井 奈緒美 (サクソフォン)

Naomi Shirai

香川県出身。くらしき作陽大学音楽学部卒業、北九州市消防音楽隊退隊後渡仏。ボーグラレンヌ、サンモール国立両音楽院卒業。ロンド国際コンクール一位。パリ国立高等音楽院入学。オランダ、中国、東欧、エレクトロ音楽、世界コンGRESS、ルーヴル美術館、初演などのコンサートに出演。四電文化振興財団奨学生。第4回アドルフ・サククス国際コンクールセミファイナリスト。P. ブレーズ マスタークラス参加。同院を最優秀、メイヤー賞で卒業。ローレア国立管弦楽団ソリスト。'08年帰国後高松第一高等学校サクソフォン講師。ドイツ K. シュトックハウゼン追悼コンサート出演。サクソフォーンを富岡和男、長瀬敏和、大城正司、C. Delangle各氏などに師事。

### 工藤 あかね (ソプラノ)

Akane Kudo

幼少からクラシック・ギターを学びGLC学生ギターコンクール第1位。一方、高木淑子バレエスクールにてクラシック・バレエを学ぶ。故・N.アザーリン氏の夏期クラス参加。立教大学仏文科卒業後より声楽の訓練を始め、東京芸術大学卒業。日壇文化協会「フレッシュ・コンサート」最優秀賞。「国際ミトロプーロス声楽コンクール(ギリシャ)」日本代表。及川音楽事務所新人オーディション優秀新人賞。シュトゥットガルト国立音楽大学マスタークラス、シュトックハウゼン講習会を受講。日本ワーグナー協会会員。

### 井原 和子 (ピッコロ)

Kazuko Ihara

フルート奏者。電子音楽そしてケルン楽派の先駆者シュトックハウゼンとの造詣は特に深く、ケルン国立音楽大学現代音楽科修了後、シュトックハウゼン夏期講習会に連続参加し研鑽を積む。2006・2007年にはコンクールコンサートにて連続入賞(2006年は優勝)をしノルトライン・ウェストファーレン州奨学金を取得。近年では、彼の音楽からさらに舞台芸術を発展させるべく欧州の多くの作曲家と電子音楽・劇場音楽・ダンサーとのコラボレーション等、新しいパフォーマンスを展開している。また、志田笙子氏作品集CDで彼女のために作曲された”合”が収録されている。

### 森川 次朗 (ダンス)

Jiro Morikawa

大阪府出身。ダンサーや舞台俳優としてだけでなく演出・振付家としてもマルチに活動している。ダンスのジャンルはモダン・クラシックバレエ・ジャズダンスと幅広い。NHK教育「うたっておどろんぱ！」(2001年～)、PUFFYプロモーションビデオ、シアター21・フェスvol.60「(有)森川ねじ」(観客賞受賞)(2006年)、音楽座Rカンパニー「リトルプリンス」(ヘビ役)、ナノスクエア公演「巖流島GANG」(2007年、出演・演出・振付)など。

### 保都 玲子 (ピアノ)

Reiko Hozu

パリ・エコールノルマル演奏家コース首席卒業後(フルート科)、ドイツ・シュトゥットガルト国立音楽大学ピアノ科ソリストコース卒業。ソロ活動の他ロンティボー、ランパル、ロストロポーヴィッチ国際コンクールの公式伴奏者も務める。2005年に演奏したピアノ曲Xにおいてシュトックハウゼン氏より日本人初のベストパフォーマンス賞を受賞、主にフランス、ドイツを中心としたヨーロッパ各地で活躍中。2000年よりパリ国立高等音楽院ピアノ科初見クラス教授に就任。